

.....

.....

.....

1

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）

○当事者 A	年齢[34]歳、 勤続年数[17]年、 現場経験年数[17] 年、 階級[消防副士長]、 同様の活動 [頻繁]、 任務 [隊員]
○当事者 B	年齢[34]歳、 勤続年数[9]年、 現場経験年数[9]年、 階級[消防副士長]、 同様の活動 [1 年に数度]、 任務 [隊員]
○当事者 C	年齢[]歳、 勤続年数[]年、 現場経験年数[]年、 階級[]、 同様の活動 []、 任務 []
その他 (当事者が 4 人以上の場合)	その他隊員は当署に勤続 3 年以上、もう 1 名のその他の隊員は 4 月に人事異動して きた職員

11. 事例発生経過。

	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過 1	当事者 A が	引き綱を操作し、三連はしご縮梯中	
経過 2	当事者 B が	梯子右側につき確保を行っていた。	
経過 3	当事者 B が	はしごの内側に指を入れている状態で「確保よし」の合図をした。	
経過 4	当事者 A は	異動してきたばかりの職員であったこともあり慎重に縮梯をおこなった。	
経過 5	当事者 A は	縮梯中、何かにあたる様な感覚があったのですぐ縮梯を停止した。	
経過 6			
経過 7			
経過 8			
経過 9			
経過 10			

【その事例発生時の状況について】

[illegible]

○事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思うか？

ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

危険情報を把握、予見できた。危険事象の対応方法を知っていた。集中力、注意力があった。資機材の操作がうまくいった。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	いいえ
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・ 1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	いいえ
・ 活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・ 体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	いいえ
・活動に対する経験が不足していた。	いいえ

d. 心身の不調があった

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用 방법이誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった（寒かった）。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	はい

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	はい
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

--

ヒヤリハット図

強風（風速約10m）のためはしごが左右に振られ不安定だったため、左右に確保員を配置して架梯訓練を実施していた。

縮梯時図赤部分の2連目の底部に右手の指を挟んでしまった。

通常の訓練時は訓練を迅速に行うため素早く三連梯子を縮梯するのですが、4月の人事異動者の教育訓練ということもあり、慎重にゆっくりと縮梯をおこなった。

その他の隊員2は当事者Bの裏で同じように確保していた。

当事者B

この部分で指を挟まれてしまった。

当事者A

挟まれ部拡大図

この部分で指を挟む。

